

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年 4月 14日公開
ギリシャ・テサロニケにて
(日本時間 4月 15日午前 3時~)

皆さん、シャローム！世界中の Watchman/見張り人の皆さん、シャローム。今、私たちはギリシャで二番目に大きな都市・テサロニケにいます。マケドニアの首府です。明日は朝早くから、Bible Land Unveiled（聖書の地アンヴェールド）の最後の撮影を行います。使徒の働き 17章の最初の9節からメッセージします。それから、第一、第二テサロニケ人への手紙を見ていきます。明日のメッセージのタイトルは「Are you turning the world upside down?(あなたは世を騒がせていますか?)」、信者の役目についてお話しします。パウロもシラスも、世を騒がせたことで非難されました。そこで彼らは何をしたのか、どんな武器を使って世を騒がせたのか、彼らが説いていたのは何なのか、私たちは何をしっかり握っていないといけないのか、それを理解していきます。それが明日です。とても楽しみです。

では、始めましょう。まず皆さんに、私の声明をお伝えします。現在の世界情勢における、信者の役割に関して、私の理解を表明します。

はっきりとお伝えしておきます。これから、この数時間の間に、シリアで起こった出来事をお伝えしますが、これは誰のことも非難するものではありません。また、誰のことも裁くものではありません。私はただ、起こった事をお伝えします。皆さんには、真実を知る権利がありますから。また、もう一つ、皆さんにお伝えしたいのは、私は確信しており、平安の中にいます。私には主の喜びがありますし、私には、私たちが握りしめるべき希望があります。私は、この全体像の中での、自分の役割を理解していますし、私たちの誰もが、それを理解しておくべきだと思います。ですから、私たちは剣を研ぐ前に、インターネットで互いを刺し合う前に、私たちの役割に目を向けませんか？そこでまず第一に、聖書を信じる者として、私が確信しているのは、この世には、二つの並行する線があるということです。一つは世界の動き、もう一つは、この世における私たちの人生。この二つの線は、世の他の人たちには存在しておらず、彼らはそれについて殆ど考えていないと思います。世は、世界の指導者たちの行動によって、世界を良い方に変えられる、と信じています。また、信者の中にも、聖書が「起こる」と告げている事を、祈りで止められる、と信じている人たちがいます。ですから私たち信者にとっては、物事がより複雑だと、私は思います。それは、私たちはこれからどうなるかを知っているだけでなく、私たちが、終わりの事を初めから理解する能力を、神が与えて下さったためです。神は、預言者を通して、終わりの事を初めから伝達されました。神は、ただ、私たちが信じさえすれば、読みさえすれば、それらに思いを巡らしさえすれば良いように、私たちに悟りを与えてくださいました。皆さんには、理解しておいてほしいのです。例えば聖書は、反キリストが世に現れる、と告げていますから。あなたが来週まで断食をしたとしても、反キリストは世に現れます。そして、ロシア、イラン、トルコがイスラエルに攻めて来る、と聖書が告げているなら、それが起こらないようにとあなたがどれだけ祈っても、それは起こります。そして、それが起こる理由は、神があなたの祈りを聞いていないからではなく、神が、指導者たちの心を知っておられるからです。神は、彼らが決断する前に、彼らが何を決断するかを、知っておられます。モーセがパロの王室に行く前に、パロがモーセに何を言うか、神はすでに知っておられ、彼に伝えたのと同じです（書記注:出エジプト記 3:19 参照）。神はこれから起こることを、すでに預言者を通して私たちに言われたのです。イエスの時代にも、同じことがありました。考えてみてください。皆さん、理解しておいてください。見張り人であることは、私たちの重要な役割です。ところで、接続が5回以上途切れているのは、私も分かっています。それでもまた接続されて、皆さんに伝わることを願います。皆さん、現在私たちが置かれている政治的、軍事的大混乱のただ中で、神がこれらの事が起こるのを許可しておられるのだ、ということを理解しておかなければなりません。また、世の指導者たちが、エゴと権力によって突き動かされていることも、神は理解しておられます。そして、最終的に起こることは、神の利益に繋がるのだ、ということも理解しておられます。言い換えれば、神は2000年、3000年前にそうされたように、これらのすべての

悪い出来事を、全て良いものに変えることがお出来になるのです。イスラエルに対するあらゆる憎悪も、ほんの80年前にも、それによってイスラエル国家が再誕して故国に戻り、ユダヤ人が故国に帰還しました。ですから、私たちが覚えておくべきことがたくさんあります。神は、目的があつて、それらが起こるのを認めておられるのです。そして私たちは、城壁の見張り人として見張り、警告し、祈り、断食し、とりなし、堅く立つのです。

私たちの希望は、この世の指導者たちではありません。

私たちの希望は、この世の軍隊ではありません。

私たちの希望は、この世の政治家ではありません。

私たちの希望は、この世のお金ではありません。

私たちの希望は、この世の富ではありません。

私たちの希望は、私たちのメシア、彼が、私たちの希望です。

興味深いのは、主のよみがえりが、現実のものだと理解した時、その希望の兆しがペテロの中に生まれたのです。「イエスが確かに生きておられる」とペテロが理解した時、その時に彼は完全に変わったのです。ですから、私たちはそれをしっかりと握りしめなくてはなりません。よみがえった主が、御父の右に座しておられ、私たちのために執り成してくださっていること、彼はもうすぐ私たちを取り去るために戻って来られることを、私たちは理解しなければなりません。

これが、私たちの希望です。

ですから、これから世界情勢についてお話しますが、彼らが何を語り、何を思い、何に突き動かされているのか、神は全てをご存知で、それらを私たちに警告しておられることを、私たちは覚えておかなければなりません。ですから、私は裁きを下しているのではないことを理解しておいてください。また、この数時間のうちに起こった事に関して、皆さんが耳にするニュースのほとんどが、完全な真実ではありません。それを覚えておいてください。また接続が切れましたね。配信は途切れがちですが、私はとにかく進めて行きます。

ということで、表明しましたので、一週間前にさかのぼりましょう。

今日は土曜日ですが、一週間前の土曜日（4月7日）、ダマスカスの郊外グータ北部ドゥーマで、化学兵器による攻撃がありました。これは否定できない事です。それが実際に起こったこと、おもに塩素が使用されたこと、人々はすでに防空壕の中にいたため、多くの人々が殺されたこと、密閉された所では、ごくわずかな量の塩素で人が死亡すること、死者数が150人を超えたことを、私たちは知っています。その映像は恐ろしく、それが起こったという証拠も存在します。この8年の間に、何度も起こった事が証明されています。異なる場所で、50回以上もです。勘違いしてはいけません。

次に皆さん、理解しておいてください。それに続いて空爆がありました。シリアの中心にある、T-4空軍基地への空爆です。最初は皆、アメリカがシリアを攻撃したのだと考えましたが、その後、人々は考えを変えて、イスラエルを非難し始めました。もちろんイスラエルは、一言も発していませんが、あなたや私は、イスラエルが行なったのだと知っていますね。ただ、皆さんが知らないのは、イスラエルがそれをした理由、それから、イスラエルはそれによって何を達成しようとしたのか。そこで皆さんにお伝えしたいのは、あれは化学兵器による攻撃自体には、一切関係がない、ということです。私たちは、化学兵器攻撃によって、それを行う正当性を得ましたが、しかし、5日前に私たちが行なったのは、化学兵器攻撃に対する報復ではありませんでした。私たちは、それをアメリカの大統領に任せていました。彼は一年前に既に、

「化学兵器が使用された時には、私が報復する」

と約束していましたから。私たちはそれを尊重しています。

そこで、次は、2018年2月10日までさかのぼりましょう。早朝、イラン製のドローンがはるばるイスラエル領土、ガリラヤ湖南部にまでやって来て、もう少しでイスラエルの領空に侵入するところでした。実際、それは国境を越えま

した。そしてイスラエルは、アパッチヘリコプターでそれを撃墜しました。それから二時間以内に、シリアの同じT-4空軍基地で、それを操縦していたコントロール・キャラバンを破壊しました。それに連鎖してイスラエルの戦闘機が撃たれ、イスラエルのパイロットが負傷、イスラエルのガリラヤ上空でF-16を乗り捨てざるを得ず、その数分のうちに、イスラエルはシリアの防空システムの3分の1を破壊しました。その全ては、一つの事のためです。皆さん、よく注意して聞いてください。よく聞いてください。

我々は、あのドローンを検査した時、イランはただ偵察のために、あのドローンを送り込んだのではない、と気づいたのです。

ドローンには、爆破物が搭載されていました。ドローンはイスラエルに侵入し、そこで爆発するようになっていたのです。あれは最新技術を使った、イランによるイスラエル国土でのテロ攻撃でした。そして、イランがそれを堂々に行ったことに、我々は衝撃を受けました。彼らがシリアに地位を確立するのを、イスラエルが容認しない事は、彼らが知っていますから。

次に、皆さんにお伝えしたいのは、我々は必要な諜報を得るのに2ヶ月かかりました。実際にはそこまでかかっていませんが、ただ、的確な瞬間を待っていたのです。そして、あの同じT-4空軍基地にある格納庫の一つは、イラン人しかいないことが分かりました。ここは、シリア国内にある、イラン政権の機密プログラムでした。そこで彼らは、こういったドローンを組み立て、それらに武器を搭載し、様々な種類の武器を実験していたのです。皆さん、明確にしておきます。イスラエルは、シリアの標的は一切破壊していません。イスラエルは、イランの標的を破壊したのです。それは、イラン革命防衛隊の最高機密の一つだったので、彼らは衝撃を受け、怒り、屈辱を受けました。そして何よりも、彼らは非常に混乱しました。

一体誰が漏洩したのか？

一体誰が、あちらで起こっている事の情報をイスラエルに渡したのか？

皆さん、イスラエルは事前に警告しませんでした。

イスラエルはロシアにも事前に知らせませんでした。

イスラエルはどの標的を攻撃しようとしているのか、彼らに知らせませんでした。

我々はお出て行って、すべき事を行なった。

そして彼らは、激怒しています。

しかし、覚えておいてください。5日前にイスラエルが行なった攻撃は、化学兵器攻撃そのものとは、一切関係がありません。我々は、何らかの情報が予測される、その瞬間を利用して直ちに攻撃を行いました。本来は恐らく1か月前に行うべき攻撃でした。ただその時は、他にも問題があったため、出来なかったのです。

皆さん、イスラエルは、シリア国内にあるイランの格納庫を破壊しました。イランは初めて、イラン兵が死んだと言いました。イランは初めて、イランがシリア国内にいることを公に認めたのです。そして初めてイランは、世に告げました。

「我々がシリアに深く地位を確立している、というイスラエルの恐れは、基本的には真実だ。我々はそこにいて、イスラエルを攻撃するためにそれを利用している。」

それが5日前に起こったことです。ですから、あの時、何が起こったかを理解しておいてください。

それから、次のことを覚えておいてください。

私はテキサスとか、バンクーバーとか、ブリスベンとかで、ゆっくりとソファーに座っているわけではありません。私は、イラン兵士が私を滅ぼし、私の家族を殺そうと企んでいる所から、ほんの数マイル離れた場所にいるのです。ですから、皆さん、イスラエル人の思考を理解しなければなりません。イスラエルは何かを行う時、それによって近隣諸国にどんなメッセージを送るかを考えるのです。我々が何かを行う時、どれほどのレベルの恐怖を彼らに与えるか。それがイスラエルの考え方です。そして、これから私が皆さんにお伝えするのは、イスラエル人として、イスラエル

の視点です。それ以外の何ものでもありません。

では、一番最後から始めます。

トランプ大統領による、諸国への演説からお話します。数時間前に、アメリカがシリアを攻撃する、と宣言しました。その中で、彼は次のように述べています。



シリアの軍事攻撃演説をするトランプ大統領

「極めて困難な世界を見渡せば、アメリカ人は幻想を抱いていない。我々には悪の世界を追放することも、暴虐に満ちた場所全てに対応することも出来ない。」

彼の言う通りです。それから、このように言いました。

「アメリカ人の血も財産も、中東に永続的な平和と安定を生み出すことは出来ない。」

彼の言う通りです。

「そこは、騒然とした場所だ。我々は、状況の改善に努力はするが、それでもそこは問題の多い場所だ。アメリカ合衆国はパートナーであり、友人だ。しかし——」

よく、聞いてください。

「この地域の運命は、この地域の人々の手中にある。」

皆さん、私はイスラエル人です。私は、今はもう違いますが、元イスラエル軍司令官です。私は、行間を読むように教えられています。このようなメッセージを聴く時には、行間を読まなければなりません。そして、この行間を読めば、基本的にはこういうことです。

「イスラエルよ。私たちはあなたがたの無事を祈っている。私たちはここまで支援してきた。しかしながら、従来の武器でないものが使用されない限り、我々はイランに対する軍事行為や戦争には、直接介入しない。」

境界線は、実にシンプルです。

アサドがどれだけ国民を惨殺しようとも、爆撃して大量の人を殺しても、化学、生物、核兵器が使用されない限り、国際社会は介入しない。以上です。

ですから、例えば爆破物を搭載したドローンがイスラエルに向かって飛んで来て、イスラエルが攻撃しなければならず、イスラエルが然るべき対応をしなければならぬ時には、誰も我々を助けません。

誰も、我々を支援しません。

誰も、我々のために立ち上がりません。

それは、「従来の武器」という枠の中に入るからです。イスラエルは、それを理解しています。ここで、皆さんも理解しておいてください。

我々は、全面的にトランプ大統領を支持しています。

一時間ほど前に、イスラエル首相は声明を発表して言いました。

「イスラエルは、トランプ大統領とアメリカ合衆国と、彼らの攻撃の決断を堅く支持する。」



ネタニヤフ首相

では次に、実際のところ、アメリカは何を攻撃したのかを理解していきます。皆さんが、真実を理解する用意が来ている事を願いますが、時として、真実は痛みを伴います。

何度も言いますが、私は裁いているわけではありません。

また、何かを非難しているわけでもありません。

もし私が、トランプ大統領だったら、きっと私も同じ決断をしたでしょう。

もし私が、アメリカの政治家だったら、きっと私も同じ決断をしたでしょう。

これから私は、実際に起こった事について、真実に基づいた情報を、ただ皆さんにお伝えするだけです。裁くのは、私たちの仕事ではありません。

覚えていてください。見張り人としての役割を私たちは理解して、インターネット上で互いに刺し合い、斬り合うのを止めなければなりません。

私たちは理解しなければなりません。私たちの役割は、あの政治家、この政治家を批判する事ではないのです。私たちの役割は、見張り人であること、そして私たちが知っているこれから起こることについて、人々に警告することです。

まず4月7日から始めます。当然、土曜日の有名な化学兵器攻撃です。

4月8日、唯一、起こった事に敵対して公に語り、起こった事を認め、起こった事に衝撃を受けた世界の指導者は、他にもないトランプ大統領です。彼は衝撃を受け、そして彼は、ケダモノ・アサドを支援したことで、ロシアとイランを非難しました。彼らはその代償を払うことになる、と彼は言いました。その同じ日に、彼は次のようにツイートしています。



トランプ大統領の4月8日のツイート

「当時オバマがこういったレッドラインに対処していれば、シリアの悲劇はとっくに終わっていたものを。アサドという動物など、過去の事となっていただろうに。」

トランプ大統領の、個人的関わりは驚きでした。我々は彼のツイートを見て、彼のコメントを聞いて、イスラエル人として、我々でさえ驚きました。我々は感動しました。一日前には、シリアから全部隊を撤退する、と言っていた大統領が、ですよ！だから、私たちは感動したのです。ところで、彼は本当に自分の気持ちを表現したのだと、私は信じています。私も、あの子どもたちや、あの家族の写真を見て、衝撃を受けたのです。だから、彼があの写真を見た時、どんなふう感じたかは、私にも分かります。それだけではなく、アメリカはロシアに言おうとしたのです。

「地域を開放しなさい！救急車が入れるように、人々が避難できるように、地域を開放しなさい！」

しかし、何もされませんでした。

事実、シリア政権は、封鎖したのです。

それによって、これがアサドの仕業であることを、大統領はさらに確信しました。

ウォールストリートジャーナルによれば、——ちなみに、それよりも、私が知っている情報源によれば、トランプ大統領の真の意図は、アサドの政府と軍隊のインフラ（基盤）を完全に破壊し、そしてこの戦争を転機に、反乱軍が引き継げるようにすることでした。それから、イランとロシアにその代償を払わせ、あの悪の枢軸に大打撃を与えることでした。皆さん、トランプ大統領の口から、その言葉が飛び出した瞬間に、悪の枢軸は衝撃を受け、防衛に入ったのです。それが正真正銘、彼の最初の計画でした。私はそれを素直に信じます。彼は、そういう男だと私には分かっています。

次に、その翌日の4月9日、ジョン・ボルトンが正式に、トランプ大統領の国家安全保障顧問になりました。



ジョン・ボルトン国家安全保障顧問

彼の取り組みもトランプ同様、非常に激しいものでした。彼は、トランプの後ろ盾となり、彼もまた、バッシュール・アサドとロシアとイランに重大な代償を払わせようとしていました。ボルトンは、インフラ（社会基盤）に大規模な爆撃を行うべきであることに賛成しました。皆さん、私は流血を喜んでいるのではありません。

私は、民間人が死ぬのを望みません。

私は、子どもたちが死ぬのを望んでいません。

だからこそ、私たちはこのような事を終わらせなければならないのです。私たちの言っているのは、軍隊に属しているインフラ（社会基盤）です。それからどうなったか、見てください。ボルトンはトランプと同じように考えていました。トランプがロシアとイランに語る時、彼の思考の中には北朝鮮も入っています。

そしてその日、4月9日、24~48時間の間に攻撃を行う、ということを政権が漏洩しました。これは、私たち全員が覚えていますね。興味深いのは、アメリカの軍指導者たちの第一回目の会議で、可能性のある標的リストが配られま

した。皆さん、ペンタゴン（アメリカ国防総省）はパニックになりました。ここで、私は裁いているのではありませんよ？ただ、皆さんに伝えているのです。ペンタゴンはパニックになりました。ちなみに、あちらの軍事組織は、ほとんどがオバマ時代からのものです。皆さん、そこに気付かなければなりません。そこで彼らは、大規模攻撃にかなり反対し、何よりも、バッシュール・アサドを倒すことには反対でした。

4月10日。皆さん、ジェームズ・マティスがホワイトハウスに呼ばれました…失礼しました。彼が自らホワイトハウスに赴いたのです。



ジェームズ・マティス国防長官

彼は、大規模な攻撃の意向を止めるため、ホワイトハウスに駆けつけました。彼は、軍参謀総長ジョセフ・ダンフォードを伴い、トランプ大統領のところに行って、

「世界大戦になれば、あなたの責任だと見なされるようになる。イラン軍は、ペルシャ湾岸のアメリカ兵への攻撃を始めるかも知れない。」

と告げて、彼を恐れさせました。トランプ大統領は、これらの大将たちに立ち向かうことは難しいと気づきます。大将のトップたちです。さらに彼はトランプに言います。

「我々は、シリアから撤退しなければならないのだ。」

これまた、もし私が、トランプ大統領の立場で、自分の大将たちからこのような言葉を聞いたなら、きっと私も同じ決断をしたでしょう。

同時に、皆さん。

イギリスとフランスは、基本的には、アメリカに次のように告げていました。

「我々が提供するものは、いかなる攻撃の際も、化学施設に限る。」

それから、…よく聞いてください。

「ロシアとの協力のもとに。」

皆さん、ロシアは、ヨーロッパを恐怖に陥れていて、ヨーロッパ人たちは怯えています。彼らは、ロシアが、イギリスや他の場所でしている事を見て、怯えているのです。そこで彼らは、トランプ大統領に言いました。

「もし我々に参加してほしいなら、我々は、一つか二つか三つの標的以外は攻撃しない。また、我々はロシアと協力し、ロシアに情報提供しなければならない。」

皆さん、ここで大きな議論が行われ、決断が下されます。化学施設と、いくつかの軍事飛行場の爆撃、主要な空軍基地二ヶ所です。皆さん、ご存知かどうか知りませんが、ロシアとアメリカの間で、何らかの対話があって、トランプは大きな計画を諦めることを決断し、それからさらに、爆撃の時間と位置をロシアに知らせることに合意しました。その時点でアメリカは、ロシアがシリアに知らせることを分かっていました。実際、マティスはそれを願ったのです。

バッシャー・アサドは、4月10日、すでにロシアから情報を得ました。

「アメリカがこれから行おうとしている事を、よく聞け。そして、空軍基地から避難し、全ての化学物質を倉庫から移動し始めるんだ。」

私が今、お伝えしている事が分かりますか？

バッシャー・アル・アサドには、二日半以上の猶予があって、空軍基地から全ての飛行機を避難させるだけでなく、全ての倉庫から、化学物質を全て取り出すことが出来たのです。そして彼は、それを実行しました。

アメリカが爆撃した全ての倉庫は、空の建物でした。信じがたいですが、中には何もなく、攻撃される準備が出来ていました。ところで、これでアサドには、まだ化学兵器の能力が残っているんですよ。物質はまだ彼の手にありますから。ただ場所が変わっただけです。

4月11日。トランプは、彼の周りの人間がロシアと合意したことを理解します。ロケットは発射される。そして唯一、その時に彼はツイートしています。

「ロシアは覚悟するがよい。新型で高性能のスマートミサイルが行くからな。」

ところで、彼は正解でしたよ。

彼は正解でした。

この時点で、ロシアは攻撃されない事も、ロケットを撃墜しない事も、彼は知っていました。事実、その反対で、アメリカとロシアは、攻撃の日にと場所において、完全に協力していました。

4月12日。大決戦の日です。皆さん、国連安保理委員会がワシントンに招集され、トランプ大統領は、彼を別々の方向へ引っ張る、バラバラの顧問たちとともに座っていました。マティスは中東撤退を決意しており、ボルトンはトランプに、バッシャー・アサドとロシアを攻撃すべきだと言いました。そしてそれはその日夜遅くに行われることが機密に決定され、ロシアに情報が伝えられました。しかし、ここで何かが起こります。マティスが出て来て、再び攻撃を止めました。そして4月12日、彼は言いました。

「この攻撃には反対であり、我々は二ヶ所の空軍基地も爆撃しない」

と。そこで再び、爆撃が遅らされました。

4月13日。ホワイトハウスは世界に告げました。

「我々は、シリア攻撃に関して、まだ決断していない。」

ところで、これは本当です。舞台裏で起こっている事の全てから、ロシアは、アメリカ側が大きく躊躇している事を悟ります。ところで、ロシアは、これは罠であるかも知れない、と恐れました。アメリカが一つの事を言っておきながら、別の事を行うのを恐れたのです。それからすぐに彼らは、自分たちがアメリカを過大評価し過ぎていた事に気づきます。そしてアメリカは、この二ヶ所の空軍基地を攻撃しない事を決定します。

4月14日。つまり、今日の早朝4時半。

「これから45分間、我々は110発のミサイルを、アメリカのB-1、アメリカのフリゲート艦、フランスのフリゲート艦、フランスの戦闘機ミラージュ、それからイギリスが、キプロスにある彼らのロイヤル基地から送った4機のトルネード戦闘機から、発射する。」

皆さん、この45分間の爆撃に、シリア人たちは驚愕します。何故か？

その理由を知りたいでしょう？

それは、一分で終わったからです。

彼らは、シリアに何も起こらなかったことに気付いたのです。空っぽの建物が、二、三破壊されました。それから皆さん、理解しておいてください。

彼らは、アメリカ人が慌てて言っているのに気付いたのです。

「一回だけだ。これで終わりだ。これ以上、何も期待するな。これで終わったんだ。」

シリア人たちは、互いに顔を見合わせていました。

ロシア人たちは、微笑んでいました。

イラン人たちも、微笑んでいました。

中東の誰もが、——皆さん、念頭に置いておいてください。

もし私が、トランプ大統領だったら、きっと私も同じことをしたでしょう。

彼自身の教義の中で、彼は中東に留まりたくなかったのです。

だから私は、彼の気持ちはよく分かります。

私はこの報告を、彼の全声明を読んでから始めたのです。

彼は、彼自身が中東を変えられない事を理解しています。彼は正解ですよ。彼には、中東は変えられません。ただ、皆さんが理解しておくべきなのは、全ての勝利宣言は、偽りでフェイクです。仮に何かが起こったとすれば、他でもなく次のことです。アサドと、ロシアとイラン、それからちなみに北朝鮮も、大統領が言うことと、大統領に出来ることとの間には、大きなギャップがある事を悟りました。ちなみにイスラエルは、トランプ大統領が行なったことで、彼の事を尊敬しています。誤解しないでください。私は、ただ中東諸国が見たことを、彼らはどう解釈しているかをお伝えしたのです。彼らが、あれをどのように解釈するかによって、今後の彼らの行動が決まるのだ、ということ、皆さんは理解しなければなりません。

次に、信者である皆さんの、城壁の見張り人としての役割です。

政治家たちが世の問題を解決する、と考えるのは止めましょう。

軍事力や勢力が、全てを修正する、と考えるのは止めましょう。聖書には詩篇 20 篇 7 節にこうあります。

7 ある者はいくさ車を誇り、ある者は馬を誇る。しかし、私たちは私たちの神、主の御名を誇ろう。

(詩篇 20:7)

私たちは、覚えておかなければなりません。

トランプ大統領の、素晴らしい善意全てをもってしても、——ところで、私は信じていますよ。彼には素晴らしい善意があることを、私は信じています——それでも、彼に修正することは出来ません。彼はすでに今朝、それを認めました。

「わたしには、中東を修復することは出来ない。あそこは問題の多い地域で、最終的な地域の運命は、その人たちの手にかかっている。」

彼は、正解です。

皆さん、イスラエルは現在、別の事を覚悟しています。

イランは、イスラエルがシリア国内で彼らを攻撃したことへの復讐を誓いました。

権力の行使は、もう終わったんだ、と誰もが理解しています。

イスラエルは、何かをするために、5万回は考えなければならない事を、誰もが理解しています。

ほんの数時間前に、ロシアが言いました。

「我々は、シリアに S-300 砲台を売ろうかと思っている。彼らには、防衛が必要だということが分かったから。」

世は、イスラエルは、ロシアにそれをしないようにとずっと説得してきたのです。

それが今、ロシアはそれを行います。

皆さん、私たちは理解しなければなりません。これは誰を批判するものでもありません。いくつかの、イスラエルのニュースサイトが、——マティスをターゲットにして、そもそもマティスは、大の親イスラエル派ではなかったのだと、皆が言っているのも、知っていますよ。私はそんな事、考えもしません。私にとっては、問題はマティスでもなければ、トランプ大統領でもありません。ほかの何でもなく、シリアで起こった事はほんの始まりに過ぎない事を、私たちは知っています。それからシリアは、攻撃の代償を支払わなければならなくなる、そしてそれは、イスラエルを攻撃するために起こることも、私は分かっています。ダマスカスが滅びることも、私は知っています。それからロシア、イランは、自分たちはアメリカには敵対できない事を知っています。しかし、確実にイスラエルには攻めて来ます。そして、それが起こったときには、言っておきますが、トランプが今回行なった事を賞賛していたトルコは、あちらに飛び乗りますよ。今日、私が言いたいことは、実に明確です。私たちは、理解しなければなりません。今回起こった事全ての砂埃が落ち着くと、皆さん、次のことを理解しなければなりません。またそれは、明確にしておくべきです。

イスラエルはこれらの攻撃に対して、自分たちは単独で戦っているということを、今日、これまで以上に実感しました。

しかし、神に感謝な事に、神が助けてくださると、エゼキエルが記しています。他の国は助けませんから。

そして私たち信者は、備えましょう。シートベルトを締めて、準備をしてください。

私たちの贖いが、確実に近づいていますから。

私たちの国境の向こう側にはモンスターがいます。

彼らは、私たちを滅ぼしたいのです。

もし彼らが自国民をいとも簡単に滅ぼすとすれば、彼らにとって私たちを滅ぼすことなど、何の問題もないでしょう。言っておきますが、彼らはまだ、化学兵器を保有しています。そして彼らはまだ、私たちを滅ぼすことを狙っています。

しかし、イスラエルの神がご介入されます。

イスラエルを守られる方は、まどろむことも、眠ることもありません。

今日、私が報告したことの全ての中でも、一つ、私が皆さんにお伝えしたいのは、

インターネット上で互いに罵り合うこと、刺し合うことでは、どんなメシアの栄光を帰すことも出来ません。それでは、神に栄光を帰すことは出来ません。それに、それは正しい事ですらありません。そもそも私たちは、世界の指導者が私たちを何かから救ってくれるとか、そういった信頼は置かないのです。皆さん、理解しておいてください。城壁の見張り人は、戦場には出て行かないのです。彼らは見張り、警告を与える。それが私たちの仕事の全てです。見張り人としての、自分の持ち場を離れて、下に降りて人を殺し始めてはいけません。自分の持ち場を離れて、互いに罵り合っははいけません。

理解しましょう。今の時、私たちは皆に伝えなければならないのです。

主について。それから、主が来られるという希望について。

私たちが互いに憎しみ合っているのは、周りにどんな風に映るでしょう。

私たちが互いに攻撃し合っている時？

私たちの姿勢が、世よりも悪いとすれば、世にはどう映るのでしょうか？

私たちは、終わりの瞬間に来ていると、私は心の底から信じています。終わりの日々ではなく。私たちは、この競走

を虚しく走りたくはありません。信者として生きていながら、人生で一度も福音を伝えたことがないなら、それをしないのなら、パウロが言ったように、その人たちは、競走を虚しく走っているのです。パウロは、自分の走ったことが無駄でなく、労苦したことも無駄にならないように、福音を伝える、と言っています。私は心から信じています。これらの憎しみの剣を横に置き、聖書を手にして、あなたの安らぎと希望を、御言葉の中に見つけてください。そして、覚えておいてください。主は、もうすぐ来られます。その時に、花嫁の準備が出来ている事を、彼は願っておられます。しっかりと備えましょう。

ご視聴いただき、ありがとうございます。

今回の配信では、何度も技術的な問題が発生していましたが、後ほど、これをユーチューブにアップロードしますので、私たちのユーチューブをチャンネル登録されていない方は、「Behold Israel/ビホールド イスラエル」をご登録ください。

インスタグラムは「beholdisrael」フォローしてください。ニュースレターをご登録ください。Behold Israel.orgです。これからも引き続き、世界情勢について、偏りのないニュースをお伝えしたいと思っています。しかし私たちは、報道機関ではありません。私たちは、人々がキリストに立ち返るのを見たいのです。人々が救われるのを見たいのです。それから、すでに主を信じている人たちが、励まされるのを見たいのです。私たちに必要な希望を得て欲しいのです。主が、彼の花嫁を迎えに来られる時が、物凄く近づいていますから。では、アロンの祝福で終了したいと思います。

ヴェイシエメレハー

アドナーイ

イエヴァーレフハー

וְיִשְׁמְרֶךָ

יְהוָה

יְבָרְכֶךָ

..(主が)あなたを守られますように

主が

あなたを祝福し

ヴィーフネッカー

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

ヤーエール

וַיְחַנֵּךְ

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יָאֵר

..(主が)あなたを恵まれますように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

照らし

シャーローム

レハー

ヴェヤーセーム

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

イッサー

שְׁלוֹם לְךָ

וַיִּשֶׂם

אֵלֶיךָ

פְּנֵי יְהוָה

יִשָּׂא

平安を

あなたに (主が)賜るように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

- 24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
 25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
 26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

あらゆる理解を超える平安、唯一、平和の君から来る平安、今もこれからも、ここでも、どこでもその平安がありますように。

イエシュア、イエスの御名によって。アーメン。

ありがとうございます。God bless you!

強くあってください。私は来週もここから報告します。もしその間に何かが起これば、スペシャルアップデートを行います。もし何もなければ、恐らく来週の土曜日、同じ場所同じ時間、——いや、同じ場所ではありませんね。イ

スラエルにいますから。でも、同じ時間に。

シャバット・シャローム！

ありがとうございました。God bless you!

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

【写真出典一覧】

シリアの軍事攻撃演説をするトランプ大統領 : Trump: Syria strikes to deter chemical weapons use—BBC News
2018.4.14

ネタニヤフ首相 : Wikipedia「ベンヤミン・ネタニヤフ」

トランプ大統領の4月8日のツイート : Twitter より

ジョン・ボルトン国家安全保障顧問 : Wikipedia「ジョン・ボルトン」

ジェームズ・マティス国防長官 : Wikipedia「ジェームズ・マティス」